

天の川にかかるはし/ A bridge over the Milky Way



1 紙芝居のシナリオ/Scenario of paper theatre

1	①		
2	とおい、むかし、 ^{ちゅうごく} 中国のお話です。		A long time ago, it is a story in China.
3	天の神様に、娘がひとりいました。		The god of heaven had one daughter.
4	名前を織姫と言いました。		Her name is Orihime.
5	②		
6	織姫は、その名の ^な ように、たいへん ^{じょうず} 上手に ^{ぬの} 布を織りました。		Orihime, as her name shows, was very good at weaving cloth.
7	空の雲を ^{くも} 模様にした、それはそれは、美しい ^{ぬの} 布でした。		It was a beautiful cloth that patterned the clouds in the sky.
8	神様「これこそ、天の ^{てん} 衣 ^{ころも} じゃ」		God: "This is the robe of heaven."
9	神様はたいそう喜ばれました。		God was very pleased.
10	トン、カラン、トン、カラン.....		
11	布を織る ^{ぬの} 機 ^{はた} の音 ^{おと} が今日も ^{きょう} 聞こえます。		The sound of cloth weaving machines can be heard today.
12	③		
13	天の川の ^{あま} 西側 ^{がわ} でそれを ^{にしがわ} 聞いている ^き 若者 ^{わかもの} がいました。		A young man was listening to it on the west side of the Milky Way.
14	働き者の ^{はたら} 牛飼 ^{うしか} いでした。		He was a hard working cowherd.
15	牛飼 ^{うしか} い「なんという ^す 澄んだ ^{おと} 音だ」		Cowherd: What a clear sound.
16	牛飼 ^{うしか} い「あの ^{はた} 機 ^お を織る ^{むすめ} のはどんな ^{おと} 娘さん ^{むすめ} だろう」		Cowherd: What kind of girl would weave that loom?
17	牛飼 ^{うしか} いはいつも ^{おも} 思う ^{おも} のでした。		Cowherd was always thinking of it.
18	④		
19	ある日、天の ^ひ 神様 ^{てん} はおっしや ^{かみさま} いました。		One day, God said,
20	神様「織姫と牛飼 ^{かみさま} いを ^お 夫婦 ^{ふうふ} にしよう」		God: Make Orihime and Cowherd a couple.
21	神様「二人で、 ^{かみさま} 力を ^{ふたり} 合 ^{ちから} わせて、 ^あ きっと ^{はたら} よく働 ^{はたら} くだろう」		God: Being together, they surely work well.
22	天の ^{てん} 暮らし ^く をいっ ^お 豊 ^{ゆた} かに ^あ してく ^あ れる ^あ だろう」		God: They will make life in heaven even richer.
23	そして、.....		And,
24	⑤		
25	織姫は ^{おりひめ} 天の ^{あま} 川 ^{がわ} を ^{うしか} 渡 ^{わた} って、 ^{よめ} 牛飼 ^い いの ^い と ^い ころ ^い へ ^い お ^い 嫁 ^い に行 ^い き ^い まし ^い た。		Orihime crossed the Milky Way and went to marry Cowherd.
26	牛飼 ^{うしか} い「 ^{はた} 機 ^お を織 ^お っていた ^お のは ^お あなた ^お でした ^お か」		Cowherd: Was it you who was weaving the loom?
27	牛飼 ^{うしか} い「 ^{うつく} おお、 ^{うつく} なんと ^{うつく} 美しい」		Cowherd: Oh, how beautiful you are!
28	織姫「 ^{おりひめ} 遅 ^{たくま} い牛飼 ^{うしか} いさん」		Orihime: Strong cowherd.
29	織姫「 ^{おりひめ} 私 ^{わたし} は ^{ひと} あなた ^ま の ^ま よう ^ま な ^ま 人 ^ま を ^ま 待 ^ま って ^ま いま ^ま し ^ま た		Orihime: I've been waiting for someone like you.
30	ふたりは ^{ふたり} うれ ^{かお} し ^{みあ} そう ^あ に ^あ 顔 ^あ を見 ^あ 合 ^あ わせ ^あ まし ^あ た。		They looked at each other happily.
31	お互 ^{たが} いに、 ^お ひとり ^{はたら} ぼ ^し ち ^し で ^し 働 ^し く ^し こと ^し しか ^し 知 ^し り ^し ま ^し せ ^し ん ^し で ^し た ^し が、		They both had been living alone and only just working,
32	今 ^{いま} は ^{ちが} 違 ^{ちが} います。		but not now.
33	いっ ^{わら} しょ ^{うた} に ^{うた} 笑 ^{うた} い、 ^{うた} いっ ^{うた} しょ ^{うた} に ^{うた} 歌 ^{うた} い、		They can laugh together, sing together,
34	いっ ^{はな} しょ ^{はな} に ^{はな} お ^{はな} 話 ^{はな} し ^{はな} す ^{はな} こと ^{はな} が ^{はな} でき ^{はな} る ^{はな} ので ^{はな} す。		and talk together.
35	夢 ^{ゆめ} の ^{ゆめ} よう ^{ゆめ} で ^{ゆめ} した。		It was like a dream.

36	⑥		
37	あさ ばん き かげ かた あ	朝から晩まで、木の陰でふたりは語り合いました。	From morning to night, the two talked under the shade of the tree.
38	なが くるかみ おりひめ	長い黒髪をとかず織姫のそばで、	Beside Orihime, who was combing her long black hair,
39	うしか くさふえ ふ	牛飼いは草笛を吹きました。	the cowherd blew his reed whistle.
40	おりひめ ゆび めの お わす	織姫の指は布を織ることを忘れ、	The fingers of Orihime forgot to weave cloth, and
41	うしか たくま て うし お わす	牛飼いの逞しい手は、牛を追うことを忘れました。	the strong hands of Cowherd forgot to chase the cows.
42	⑦		
43	かみさま あま ころも	神様「このままでは、天の衣はほころび、」	God: If this continues, heaven's clothing will be destroyed,
44	かみさま た たがや うし	神様「田を耕す牛は、いなくなってしまうだろう」	God: and there will be no cows to plow the fields.
45	すく ちから お	ふたりの優れた力を惜しまれました。	Their great power was missed.
46	けれども、ふたりは木の下に座ったまま、	けれども、ふたりは木の下に座ったまま、	However, they both sat under the tree,
47	しごと かお ようす	仕事をする様子がありません。	and showing no signs of working.
48	⑧		
49	てん かみさま はな	天の神様は、とうとうふたりを離してしまわれました。	God finally separated them.
50	おりひめ かわ ひがし もと	織姫は川の東へ戻されてしまったのです。	Orihime was sent back to the east of the river.
51	⑨		
52	トン、カラン、トン、カラン。	トン、カラン、トン、カラン。	
53	おりひめ めの お	織姫は、また布を織りはじめました。	Orihime started weaving cloth again.
54	うしか うし せわ	牛飼いは、牛の世話をはじめました。	Cowherd started taking care of the cows.
55	けれども、ふたりは悲しくてなりません。	けれども、ふたりは悲しくてなりません。	However, the two are sad so much.
56	おりひめ うしか あ こえ き	織姫「牛飼いに逢いたい。声を聞きたい」	Orihime: I want to meet Cowherd. I want to hear his voice.
57	うしか おりひめ	牛飼「織姫はどうしているだろう」	Cowherd: I wonder what Orihime is doing.
58	うしか ひとめ あ	牛飼「一目会えたら、どんなにうれしいことか、……」	Cowherd: How glad I would be if I could see her just for a glance.
59	かお あお	ふたりの顔は青ざめ、だんだんやせていくのでした。	Their faces were turning pale and thinning.
60	ようす み てん かみさま おも	その様子を見て、天の神様はかわいそうに思われました。	Seeing this, God felt sorry for them.
61	⑩		
62	かみさま いちねん いちど あ	神様「ふたりを一年に一度、会わせることにしよう」	God: I will let them meet once a year.
63	ひ しちがつ なのか き	その日を七月七日とお決めになりました。	God has decided that the day will be the 7th of July.
64	しちがつ なのか よる	七月七日の夜になると、	On the night of July 7th,
65	おりひめ うしか あま がわ ひがし にし はし	織姫と牛飼いは天の川の東と西から走ってきます。	Orihime and Cowherd run from the east and west of the Milky Way.
66	⑪		
67	どこからともなく かさぎ あらわ	どこからともなく鶺鴒が現れて、	KASASAGI magpies appeared out of nowhere,
68	はね なら はし	羽を並べて橋になりました。	and spread its wings to form a bridge.
69	おりひめ はし わた	織姫は、その橋を渡って、	It says, Orihime, crossing the bridge,
70	うしか もと い	牛飼いの元へ行くのだと言われています。	goes to Cowherd.
71	おりひめ うしか あお いちねん いちど あ ひ	織姫と牛飼いが、こうして一年に一度会う日を	The day when Orihime and Cowherd meet once a year
72	たなばた い	七夕と言うようになりました。	... is called Tanabata.
73	⑫		
74	たなばた よる そら みあ	七夕の夜に、空を見上げてごらんさい。	Look up at the sky on the night of Tanabata.
75	おりひめ ほしさま うしか ほしさま	織姫のお星様と牛飼のお星様が、	Orihime star and Cowherd star, ...
76	うれしそうに並んでいるのが見えますよ。	うれしそうに並んでいるのが見えますよ。	You can see them happily lined up.
77	(おわり)		The End

2 七夕の簡単な歴史/A brief history of Tanabata

1. 日本には古来から「七夕信仰」がありました。

Japan has had “Tanabata faith” since ancient times.

2. 七月七日の夜、「たなばたつめ」(機織女)と呼ばれる聖なる乙女が、水辺に棚を作り、機を織って神を迎えるというものでした。

On the night of the seventh day of the seventh month, a holy maiden called “Tanabatatsume” (weaver) would build a shelf by the water and weave a loom to welcome the gods.

3. この日本古来の「たなばたつめ」の信仰と、中国古来の「牽牛星」「織女星」の伝説が混ざり合って、現在の七夕がはじまったものと言われています。

It is said that the present Tanabata festival began as a result of a mixture of this ancient Japanese belief in “Tanabatatsume” and the ancient Chinese legends of “Kengyusei” and “Orihime star.”

4. 願いごとを書いた短冊を笹の葉に吊す風習は、江戸時代頃からはじまりました。

The custom of hanging strips of paper with wishes written on them on bamboo leaves began around the Edo period (1603-1867).

5. 「牽牛・織女」伝説に肖って、裁縫が上達するように祈る七夕の行事がありました。

There was a Tanabata event to pray for the improvement of sewing skills, based on the legend of the “Checker and Weaver.”

6. 主に宮中で行われていたのですが、次第に変化し、江戸時代には一般への手習いの普及に伴って、字が上手になりますようにと願うようになりました。

Although it was mainly performed at court, the practice gradually changed, and by the Edo period (1603-1867), with the spread of manual learning to the general public, people began to wish for better handwriting.

7. 笹竹を立てる風習は七夕だけの風俗とは限りませんでした。寺子屋の子どもたちが七夕の行事としていたものが広く一般化したものと言われています。

The custom of setting up bamboo branches was not necessarily exclusive to Tanabata, but it is said to have become widely popular among the children of terakoya (a school for children) as their Tanabata event.

3 Resource



- Tanabata page: <https://cuckoo.js.ita.titech.ac.jp/~tanabata/>
- Paper show/theatre: Story by Kazuko Ogawa, pictures by Fukiko Kano, Published by Kyoiku Gageki Co., Ltd.

